



長野県病院図書館連携アンケート調査報告

前澤 好広

近畿病院図書室協議会第108回研修会を長野赤十字病院にて行うにあたり、長野県内にある病院図書館の活動を把握することにより、各病院図書館連携のさらなる発展を企図する目的でアンケート調査をいたしました。病床数50床以上の64病院、3大学にアンケートを依頼し、10病院と2大学より回答をいただきました。回答をいただいた病院は市民病院が2、日赤病院が3、厚生連病院が1、民医連が1、民間病院1、県立病院が2でした。共に地域の中核病院で300床以上の病院でした。

アンケートの設問内容を以下に挙げました。

1. 図書館はありますか？
2. 図書館担当者はいますか？
3. 図書館担当者が図書館にいる曜日と時間帯
4. その担当者は司書あるいは司書補ですか？
5. その担当者は図書専任ですか？
6. 兼任の場合のもう一方の部署名
7. その担当者は常勤ですか？
8. 非常勤職員の場合の雇用形態
9. 図書館を運営する図書委員会はありますか？
10. 図書館担当者は図書委員会の委員ですか？
11. 図書館の利用対象者
12. 図書館は24時間利用できますか？
13. 雑誌の貸出は可能ですか？
14. 図書の貸出は可能ですか？
15. 図書館業務として行っている事
16. ILLおよびDDSによる文献料は施設負担ですか？
17. ILLの申込相手館は主にどの館種ですか？
18. ILLの受付相手館は主にどの館種ですか？
19. 施設あるいは図書館担当者個人で加盟している図書館団体はありますか？
20. はいと答えた場合の図書館団体名
21. この調査に回答いただいた方の施設名、部署名、氏名

ご回答からは地域における病院、大学の姿が映し出されていました。

設問ごとの回答を以下にご紹介します。

1. につきましては全てで設置していました。
2. においても担当者がいました。
3. コアの時間帯は8:00から17:00でした。施設によっては遅くまでいる病院、大学がありました。
4. 2/3が司書あるいは司書補でした。
5. 専任は2/3でした。
6. 兼任の部署は、総務、庶務、診療情報、地域連携室、秘書課でした。
7. 10施設が常勤でした。
9. 9施設が設置されておりました。
10. 8施設が委員でした。
11. 病院においては、職員、臨床実習生、地域連携医療職、大学においては患者、一般市民が加わっていました。
12. 9病院と1大学が24時間利用可能でした。これらの施設が24時間対応していることは、病院機能評価により24時間の利用を求められていることと、医療スタッフが利用できるのは、一日の業務が終わった後が主なためと思われます。
13. 雑誌の貸出は2/3の施設が可能でした。

14. 図書の貸出は10施設が可能でした。
15. 図書館業務につきましては、兼務の施設ではマンパワーの不足と、一人職場で知識を得る機会が少ないため行えることが限られていました。専任者のいる施設は文献検索、検索代行、図書館ニュース、新着資料案内など、多くの業務を行っています。ただ施設により業務内容にバラツキがありました。大学図書館では利用者がガイダンスからパソコンなどの機器のメンテナンスまで幅広い業務を行っていました。
16. 文献料の施設負担は、2施設のみでした。
17. ILL 申込の主な相手館は、所蔵が多い大学図書館でした。
18. 受付の主な相手館は、病院図書館は、病院図書館からで、大学図書館は大学図書館でした。
19. 20. 2/3が加盟し、加入団体は、近畿病院図書室協議会、病院図書室研究会、日赤図書室協議会、日本医学図書館協会、公立大学図書館協議会、日本看護図書館協議会で、1団体のみのところが多くありました。1/3はどこの団体にも加入しておらず、図書館員に必要な情報が不足していると推測できます。

このように病院図書館があっても、一人職場や兼務である施設が主でした。業務に必要な情報が不足しがちであると考えられます。医療の進歩は早く、スタッフからはより新鮮な情報を求められます。これに応えるためにも担当者のスキルアップが必要です。このような中で病院

図書館の連携、担当者の連携が必要だと思います。

アンケートの取りまとめにあたり、大阪府立母子保健総合医療センターの中村雅子氏に大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

長野県は四方を山に囲まれ、中央を千曲山地、八ヶ岳、木曾山脈に分断された盆地であり、ここに200万の人々が住んでいます。戦国の時代より、北信、東信の村上氏、南信、中信の小笠原氏とこれらの地形の影響を受け統一はできませんでした。

長野県の医療も、地形の影響を受け隣の町に行くには急峻な峠を越えるため第3次保健医療圏を4つに分け、各地域に基幹病院を設置しています。200万もの県民を一手に診るような大きな病院は出現しておりませんが、1,200床の厚生連佐久総合病院が救急ヘリを導入しました。また高速道路などの交通網の整備により病院の機能分化も始まるでしょう。

このような流れのなかで、医学情報を迅速に提供し、担当者のスキルアップも求められています。アンケート結果でも一人職場、兼務の方もいて担当者の連携が求められており、身近な顔の見える病院図書室の連携も必要かと思われます。

まだ長野にはなかった医学病院図書館の地域ネットワークが求められています。

この雑誌が出版される頃には、皆様のおかげで長野にも医学図書ネットワークが誕生している事でしょう。ありがとうございました。